

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	倫理学	
科目基礎情報							
科目番号	0054		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	都市環境デザイン工学科		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	〔教科書〕 『現代倫理学入門』（加藤尚武著、講談社学術文庫、1 9 9 7）〔参考書・補助教材〕 必要な資料文献は適宜プリントして配布する。						
担当教員	町 泰樹						
到達目標							
日常生活において出会うさまざまな倫理的問題がどのような問題なのかを具体的事例に基づき考察する。それによって、現代の倫理学は何を問うているのかを理解するのが本科目の目標である。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1.行為規範の普遍妥当性を理解できる。		行為規範の普遍妥当性について、自分の言葉で説明できる。		行為規範の普遍妥当性に関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。		行為規範の普遍妥当性について、一問一答式で答えることができない。	
2.生存功利主義とサバイバル・ロッタリーを理解できる。		生存功利主義とサバイバル・ロッタリーについて、自分の言葉で説明できる。		生存功利主義とサバイバル・ロッタリーに関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。		生存功利主義とサバイバル・ロッタリーについて、一問一答式で答えることができない。	
3.功利主義と義務論的な立場との違いを理解できる。		功利主義と義務論的な立場との違いについて、自分の言葉で説明できる。		功利主義と義務論的な立場との違いに関する複数の説明文から、適切なものを選択することができる。		功利主義と義務論的な立場との違いについて、一問一答式で答えることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科目では、日常生活において出会うさまざまな倫理的問題がどのような問題なのかを具体的事例に基づき考察する。本科目は、2年次の「倫理」の延長として位置し、主に義務論・功利主義を区別・批判しながら諸問題を考察する。5年次の人文社会科学の諸教科、「技術倫理総論」、および専攻科2年の「技術倫理」と関連する教科である。						
授業の進め方・方法	本科目では、講義形式で授業を進める。						
注意点	単になる暗記に終わることなく、自分自身で問題を考え抜く態度を身につけること。教科書や適宜配布するプリントを参考に毎回復習し、200分以上の自学自習を行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	嘘はゆるされるか		行為規範の普遍妥当性を理解できる。		
		2週	多数者の犠牲は許されるか		生存功利主義とサバイバル・ロッタリーを理解できる。		
		3週	誰を救うか？		功利主義と義務論的な立場との違いを理解できる。		
		4週	エゴイズムに基づく行為		快楽主義の意義について理解する。		
		5週	どうすれば幸福の計算ができるのか		厚生経済学の理念について理解する。		
		6週	判断能力があるとは？		バイオエシックスにおける人格概念を理解できる。		
		7週	「である」から「べきである」を導き出すことはできないか		自然主義的誤謬批判の立場とそれに関連する直覚主義、情緒主義、世俗的主意主義などの議論を理解できる。		
		8週	正義の原理は純粋な形式で決まるのか？		カントの定言命法とヒュームの正義論、ミルの功利主義的な普遍化理論を理解できる。		
	2ndQ	9週	思いやり道德の規則とは		黄金律と互酬性、道德の基本構造を理解できる。		
		10週	正直者が損しないように		囚人のジレンマの構造、ただ乗り問題を理解できる。		
		11週	他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか		他者危害原則、悪行権を中心とする自由主義の立場とその問題点を理解できる。		
		12週	貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか。		ミルの自由主義の背景になっている、相互的な完全義務と恩恵的な不完全義務について理解できる。		
		13週	現在の人間には未来の人間に対する義務があるか		世代間倫理、「恩」の概念を理解できる。		
		14週	正義は時代によって変わるか科学の発達に限界を定めることができるか		相対主義に関する議論の構造を理解できる。科学技術の功罪、可能性と危険性を理解できる。		
		15週	前期期末試験の答案返却・解説		期末試験において、これまでの達成度を確認する。各試験において間違えた部分を自分の課題として把握する（非評価項目）。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0